

歌唱よりの歌詞聞きとりについての試み

— 日 本 歌 曲 1 —

伊藤 和子・中村 直子

ヴィクターレコード

日本歌曲についてその歌われている歌詞が聞きとれないとよくいわれ、又事実経験もされることである。歌曲は歌詞とそれに伴う曲によって成っているものであるから、そのいづれかに欠陥があれば所期の成果は得られぬことになる。そこにはどのような事情があるのであろうか、どのような条件のもとにある場合正しく聞かれにくいのであろうか。歌唱者には各々経験的に知悉されていることが種々あるであろうが、実際に聞く側のそれも検討しておく必要があると思う。

歌唱の際、歌詞にかわるものとしては、ことばの側からの発音・歌詞としての表現、曲の側からのことばのアクセント・イントネーションとの関係、その他高さ・早さなど、又歌詞の内容と曲調の関係等々多くのことが考えられる。今回は主として音響についての設定がよく出来なかったので、手はじめとして市販のレコードにより、普通一般に聞かれている状態に於る例として試みることにした。

被験者、使用レコード、その他は次の通りである。

・被験者

東海女子短期大学児童教育学科1年

A. 国語コース 89名

B. 体育・美術コース 99名

(高校に於て選択科目として音楽を履修した者、A. 22名 B. 24名)

・使用レコード

〔1〕 あざみの歌 倍賞千恵子の日本の歌

キングレコード

〔2〕 さくら貝の歌 同上

〔3〕 平 城 山 世界愛唱歌100曲選

・方 法

120名用の教室の教卓にプレーヤーを置き、ヴォリュームを聞きやすいように調節し、レコードをかけ聞きながら歌詞を書きとめてゆく。

その他、時期は短大に於る学習の影響があまり出ない期間として6月初旬、^{注1} 国語学の概論で音声の部分をしている時間の一部を使用した。又二つのクラスについて行ったので、〔1〕の「あざみの歌」を共通にして、クラス間の差について備え、内容のもれぬよう配慮した。

予備調査としては、他のクラスを用い、音量及び聞きながら書き取る場合の曲の速度、一回に行うに適当な量について調べ、それぞれ一応の見当をつけた。その結果からして使用レコードは女声であり高音及び低音を用いないものをとった。女声をとったのはききとりやすいこと、高音及び低音を避けるようにしたのは、処理の際の扱い方に問題となる点を考えられたからである。

尚、音響の面において或種の音が聞きとりにくいと思われる点があったが、それ程ひどいものではなく、大体正しく書き取れるとみられたので、結果の処理の際に含んでおくことにとどめた。よって積極的な資料としては、よく聞きとれている部分をとりあげ得るものとして考えておくことにする。

次に結果を示す。表の「○」は被験者の70%以上が正しく書けている音節、「●」は正しく書いた者が30%以下であるものである。下の括弧内の文字はは、被験者の10%以上が記しているものを示す。

- ・音を延ばした場合母音を書き添えたものは除いた。

- ・部分的に書かずに線を引いているものがある。
- ・楽譜は「愛唱名歌集」(野ばら社)のもの。

あざみの歌

Moderato 感情をこめて 横井 弘 作詞
八洲 秀章 作曲

やまにはやまのうれいーありー
うみにはうみのーかなしーみやー
まーしてこころのはなぞーのにー
さきしあざみのーはなーなーらーばー

山には山の 愁いあり
海には海の かなしみや
ましてこころの 花園に
咲きしあざみの 花ならば
高嶺の百合の それよりも
秘めたる夢も ひとすじに
くれない燃ゆる その姿
あざみに深き わが思い
いととき花よ 汝はあざみ
こころの花よ 汝はあざみ
さだめの道は はてなくも
かおれよせめて わが胸に

〔1〕 あざみの歌 (被験者 188名)

○や	○ま	○に	○は	○や	○ま	○の	○う	○れ	○い	○あ	○り
○う	○み	○に	○は	○う	○み	○の	○か	○な	○し	○み	や (が) (あり)
ま	○し (ち)	○て	○こ	○こ	○ろ	○の	は (あ)	○な	ぞ (と) (の)	の (ろ)	○に (り)
さ (か) (あ)	○き	○し	あ (や)	●ざ (な)	み (ん)	の	○は	○な	○な	○ら	○ば
・た (か)	○か	○ね (れ)	○の	○ゆ	○り (い)	○の	○そ (と) (と)	○れ	○よ	○り	○も

ひ (い) め (ね) た (か) る ゆ め も (の) ひ と す (つ) じ に

く (う) れ な い も ゆ (るる) ● そ (は) の (な) す (つ) が (ま) た (ば) (あ)

● あ (か) ● ぎ (た) み に ふ か き わ (は) が (な) お も い

い (ひ) と し (い) き は な よ な は (が) あ ぎ み

こ こ ろ の は な よ な は あ ぎ み

さ だ (ぎ) め (べ) の み ち は は て な く も

か (た) お (も) れ よ せ め て わ (は) が (な) む ね に

〔2〕 さくら貝の歌 (被験者 99名)

う る わ し き さ く ら が い ひ と っ

● さ (な) り (に) ゆ け (え) る (ぬ) き (ひ) み (び) に さ さ げ ん (る)

こ の か い は (を) こ (あ) ● ぞ の は ま べ に

● わ (か) れ ひ と り ひ (い) ろ い (ち) か い よ

ほ の ぼ の と う す べ に そ ● む (ぐ) る は (わ)

○わ ○か も ゆ る さ み し ●ち し お ○よ
(こ) (う) (こ) (び) (き)

●ろ ●ろ と ●か ●よ ●う か お り は
(ほ) (の) (ぼ) (の) (の) (あ) (の) (い)

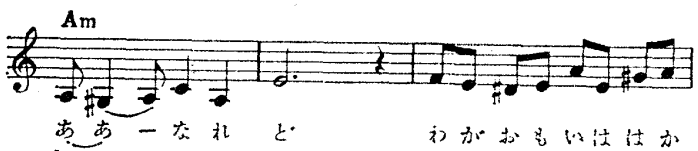
●き み (と) う る ●む ね ○の ○さ ○ぎ ○な ○み
(ふ) (う)

あ あ ○な ○れ (ど) ○わ ○が ○お ○も ○い ○は ○は ○か ○な ○く
(は)

う つ し ●よ の な ぎ さ に は て ぬ
(つ) (ず) (お) (か) (ぜ) (る)

さくら貝の歌

土屋花情 作詞
八洲秀章 作曲



うるわしき さくら貝ひとつ
去りゆける 君にささげん
この貝は 去年の浜辺に
われひとり ひろい貝よ

ほのぼのと うす紅染むるは
わが燃ゆる さみし血潮よ
はろばろと かよう香りは
君恋うる 胸のさざなみ

ああなれどわが思いは儂く
うつし世の なぎさに果てぬ

平 城 山

北見志保子 作詞
平井康三郎 作曲

平井康三郎 作曲

ひ と こ う は かな し き

も の と な ら や ま に

も と お り き つ つ た え が た

か り - き い に し え

も つ ま に こ い - つ つ こ え し と

う な ら や ま の み ち に な み だ お

と - - し - め -

人恋^こうは
悲しきものと
平城山^{ならやま}に
もとおり来つづ
堪^たえ難^{がた}かりき

いにしえも
妻に恋いつつ
越えしとう
平城山の路に
涙おとしぬ

〔3〕 平 城 山 (被験者 89名)

ひ(し) ○と (こ) ●う(ろ) は(の)

○か ○な ○し ○き ○も ○の ○と

○な ●ら(な)(の)(ろ) ○や ○ま ○に

(も) (た) ●お(か) り き(に)(ひ)(し) ●つ(か) ●つ(く)

●た ●え(い) ●が(な)(ま) ●た(か) か(は) ●り(い) き

○い(ひ) ○に ○し ○え ●も(の)

つ(ふ)(す)(う) ○ま ○に ○こ ○い つ(す) つ(く)(る)

○こ ●え (い) ○し (と) ○う ○な ●ら (が) (な) ○や ○ま (が) み ●ち (し) (て) に (い)
 ○な ●み (り) ●だ (た) ●お と し ●ぬ (の) (お)

以上、歌唱からの歌詞のききとりは予想外にむつかしかったようである。種々原因はあることと思われるが、表の上からみられるものをあげてみる。^{注2}

I 母音はかなり正しくきかれている。

例 ぞ……と、の (あざみの歌)
 さ……か、あ “
 そ……と、こ “
 く……う、つ “
 だ……ざ、な “
 り……に、み (さくら貝の歌)
 む……ぐ、う “
 わ……か、だ “
 て……ぜ、れ “
 き……に、ひ、し (平城山)
 つ……ふ、う、す “
 が……な、ま “

被験者10%以上の場合、「あざみの歌」50の中44、「さくら貝の歌」48の中42、「平城山」41の中28は母音は正しい^{注3}

II 比較的高い音、又逆に低い音にある場合は発声上母音が変化してきこえるようである。

(イ) 高い音の場合、オ、ウの母音がアとききとられている。

例 お……か (平城山)
 つ……か、た (“)
 そ……は、あ (あざみの歌)
 の……な、は (“)
 こ……あ (さくら貝の歌)

(ロ) 低い音の場合、ウの音がオとききとれている。

例 ぬ……の、お (平城山)

III 言葉のアクセント、メロディーの動きが逆進行している場合、ききとりにくくなるよう

である。

例 さきしあざみ (あざみの歌)
 あざみにふかき (“)

III 意味への志向が相当あるようである。

例 かなしみや……かなしみあり
 「うれいあり」の対の位置にある。
 そのすがた……はなすがた
 あなすがた

前の句「くれないもゆる」の関係か (あざみの歌)

きみにさゝげん……きみにさゝげる
 このかいは……このかいを
 こぞのはまべに……あのはまべに
 はろばろと……ほのぼのと

前に「ほのぼのと」の句がある

(さくら貝の歌)

つまにこいつつ……つまにこいする
 こえしとう……こいしとう
 ひとこうは……ひところの (平城山)

尚、前にある語をききちがえると、その関係できいてゆくようで、あと…の部分の意味をなさないものとなる場合がかなり見られる。「平城山」が他の二つと比較してよくないのは、最初の句が意味の上からもうけとりにくかった為かとも見られる。

これらの結果は大体予想されたものであるが、意味の上で全くちがった語としてききかれている場合でも、母音が正しい率がこのように多いとは考えていなかった。歌詞の内容、歌の性格にもよるであらうが、句毎に次に来る意味を予想しながら母音のひびきにあわせて、子音の方はききやすいものをえらんできかれたもののような感じをうけることである。音響の上で子音を問題にしなかった関係もあって、正しく

きかれている部分について考えなかったが、今後行う場合に資料としてゆくことにする。

このような場合は、一回にあまり長くない曲二つ位が限度のようである。又、繰り返し同一の対象者について行う場合は、ききとりよりむしろ歌詞に関して馴れが出来るのではないかと思われる点があるので、一応の結果を得るまでには、かなりの期間が要るように思われる。つづけて今回の補正を行う目的で同様の類の事を行いながら、別の事も扱って行きたいと考えて

いる。

注1，児童教育科では音楽は必修である。

注2，それぞれの歌について、知っている、聞いたことがある、という者があったが、聞きとりについてあまり一般と差がなかったので考慮しなかった。

注3，子音は調音の位置の関係で問題になる向も見られるが、音響関係の影響が大きい部分であるので扱わなかった。